

大学教育イノベーションセンター事業報告

1. はじめに

2020年10月に、教育開発推進機構が設置され、その中で「大学教育イノベーションセンター」は、「教学マネジメント」のPDCAサイクルを循環させるための組織と位置付けされている。すなわち、教育改善・学修支援部門ならびに教学IR部門により「教養教育を含む学士課程教育に関する調査研究と教育改善に関する助言支援」「入学から卒業までの学修データの蓄積・解析とそれに基づく修学に関する助言支援」など、入学から卒業までの学修データに基づき学士課程教育を支援するセンターに生まれ変わった。以下、本年度の主な事業について報告する。

2. 教育改善部門・学修支援部門

主に教養教育科目のカリキュラム設計、学士課程における教育改善FDに関する活動を行っている。

2-1. 令和2年度に実施した長崎大学FD

教務委員会の評価・FD教育改善専門部会と協力しながら、長崎大学FDの企画・運営を行っている。ここでは、令和2年度4月から2月にかけて全教員を対象に実施されたFD研修について報告する。例年、集合研修によるものが殆どであったが、今年度に関しては、コロナ禍における実施ということもあり、オンラインによる研修となっている。

(1) 「ビデオ会議システムによるオンライン授業の設計と実践」リアルタイムオンライン研修

実施日：令和2年8月3日（月）

参加者：127名

(2) 上記FDのオンデマンド型研修

実施日：令和2年9月3日（木）～9月25日（金）

参加者：4名

(1)(2)のFDは、ビデオ会議システムのオンライン会場にて開講することにより、オンライン

授業を受講する学生と同じ状況を体験して頂くことも目的とし、ビデオ会議システム（Webex）を利用したオンライン授業の開講事例についてのものであった。今年度のようなコロナ禍の状況において、オンラインでの対面授業におけるビデオ会議システムの導入は必須であり、また、その授業設計においてLACSのようなLMSの活用も重要となっている。前半では、オンラインでのリアルタイム授業（基本編）ということで、ビデオ会議システム（Webex）の特徴やリアルタイム授業でWebexやLACSを活用するための授業構成のヒントなど、「情報基礎」での実践事例の紹介があった。後半では、薬学部における授業への適用例などについて、リアルタイム型・オンデマンド型の授業展開についての紹介があり、これらは、反転授業や対面講義とオンラインのブレンド型授業への展開にも参考となるものであった。フィードバックシートからは、その手法など参考にできるものとして高評価となっている。ビデオ会議システムには、ここで紹介されたWebexの他にZoom、Microsoft Teams、Google Meetなど様々あり、他大学の動きと同様であるが、大学としてシステムを統一という方針はとっていない。また、ビデオ会議システム単体だけでは、授業自体は難しいものがあり、授業のオンライン化にはLACSのようなLMSと適宜組み合わせる必要がある。また、今回のビデオ会議システム部分を、各教員らが操作できるシステムに置き換えることによって応用できるものと思われる。さらに、前半・後半にわたり、連続して約70分間の研修であり、間に休憩などを希望される意見もあり、学生に対するオンライン授業の授業設計において、長時間の講義ではなく、適当な「間」も必要であることも、今回の研修で体験できた。

今回、薬学部で実施された部局FDと同様なものを全学FDとして開催して頂いた。今後もいろいろな授業設計・実践例に関するFDを開催していきたいと考える。

(3) 「リモート授業の工夫に関する実践事例の紹介 (オンデマンド型)」

実施日: 令和2年10月1日(木)~10月29日(木)

参加者: 86名

このFDは、6月24日に工学部で開催された「リモート授業の工夫に関するFD」という部局FDのオンデマンドバージョンであり、工学部から快く情報提供を頂き、全学FDとして紹介するに至った。

内容は、対面授業が段階的に増えていく状況ではあるが、周辺機器の利用から動画配信、オンラインテストの方法など、授業の中でも活用できるものとなっていた。受講者のフィードバックからも、さまざまなツールが紹介されていたことや実際の授業展開が示されていたことから、好評であった。

受講確認用の課題レポートでは、特に、Metamoji Note や OfficeLens などへの反響が多く、今後、自分の授業への組み込みなどを検討されている教員も多くみられ、授業動画の配信方法でもYoutubeの活用を検討するなど、有意義なFD研修となった。一方、技術的な不安な点も挙げられており、操作方法に関する研修、さらにシンプルツールを利用した事例紹介の研修も多く望まれている。また、研修の中でも紹介があったオンライン試験方法については、各大学でも検討を行っているのが現状であり、定期試験だけで成績評価はせず、小分けした形成的評価で行うことが多くの大学でも推奨されている。よりよい方法の事例紹介なども今後検討していきたいと考える。

(4) 「オンライン授業の設計と教育効果を発揮するための運営上のティップスについて」

実施日: 令和2年11月24日(火)~12月24日(木)

参加者: 67名

今回、新型コロナウイルス対策として一般的となったオンライン授業に際し、対面授業とは異なるアクティブラーニング型授業の導入のために、学生の理解度の確認のツールとして利用される「MicrosoftForm」, 「GoogleForm」を取り上げた。さらに、模造紙や付箋紙を利用していた他学生との協働学習に対しては、オンラインホワイトボー

ドツールとして Beccanvas について紹介をおこなった。これらのツールは、数多く存在し、学生の利用の混乱を避けるためには、フィードバックのご意見にもあるように、ひとつに絞りこむ必要があるが、選択はなかなか難しいものがある。

ただし、Beccanvas については、モジュール科目のひとつのテーマにおいて、各科目担当者が検討・勉強会を行い、共通のツールを用いることとした。今回のようなFDを通し、各授業で利用されているツールを拾い上げ、絞り込んでいく方法も考えられる。

特に、共通で利用可能な Office365 関連の紹介が望まれ、そのことによって、本学の環境整備も進んでいくとも考えられる。オンライン授業は、新型コロナウイルスの終息後も効果的な授業方法のひとつとして

考えていく必要がある。これまで各授業で利用されてきたツール(成績評価方法や授業設計含む)の整理を行い、今後に備えたいと考える。

(5) 「UD フォントと伝わるプレゼン資料レイアウトのコツ」オンライン開催 (リアルタイム)

実施日: 令和3年1月28日(木)

参加者: 65名

大学教育でも多くの知識の伝達手段として、視覚を利用したものは多く、授業やその教材作成において、デジタル化された文書やプレゼン資料が使われる。それらの資料が分かりやすいものであるかどうかは、その内容に左右されるものであるが、その他に見え方についても注意が必要となる。多様な学生への授業では特に重要であり、対面授業・オンライン授業など授業形態に関わらず、見え方の多様性に配慮し、見やすく読みやすい文字や色を選ぶことが欠かせない。今回のFDでは、「文字」について注目し、その教材作成における効果的なレイアウトの方法やフォントの導入についての研修となっている。講師は、ユニバーサルデザイン(UD)に対応した文字(UDフォント)について、実際にフォントの開発・提供を行っている書体メーカーの方に依頼して行った。「見やすい」や「伝わる」というのは自分の主観ではなく、誰から見てもそうだという客観性が大事であるこ

とを気づかされる研修であった。コロナ禍によるオンライン授業で、教材作成が以前にも増して多くなった中、受講者の多くは「今後の授業実践に役立つ内容」ということで、好評であった。「伝えるデザインの基本」や「できる研究者のプレゼン術」など資料作りに活用できる書籍も多く見られるが、この研修を契機に参考にして頂ければ幸いである。

3. 教学 IR 部門

平成 25 年に設置された、教学 IR の部門では、学生の学修行動・学修成果を包括的に可視化するため、入試データ、授業評価を含む教務データ、卒後の進路データ、学生調査等の大規模調査を含む学生データおよび卒業生・就職先等の調査を含む卒業データなどを一元的に収集・蓄積し、分析を行うシステムの整備を進めている。すなわち、学士課程教育の入口から出口までを担う全体的な教学マネジメントシステム自体もまた、3 ポリシーの中に PDCA サイクルを担う役割として位置づけられている。具体的には、「授業アンケート」、「学修状況報告」の実施およびその集計などがあげられる。

「授業アンケート」に関しては、各期において、入力率、集計・分析速報に関する報告を、教務委員会等にて報告し、センターホームページ上にも掲載した。また、学修状況報告についても、令和 2 年度入学時調査および令和元年度末に全学生対象に実施した調査の集計結果等を取り纏め、委員会および各部局へ情報提供を行った。

以下にホームページによる情報提供例を示す。

The screenshot displays a navigation menu with several categories of reports and surveys:

- 授業アンケート分析 - 2020版 (学内専用)**
 - 第 1 Q 授業アンケート分析資料 (学内専用)
- 卒業生調査 - 2018版 (学内専用)**
 - 卒業生調査2018 基礎集計 (最終版 2008卒) (学内専用)
 - 卒業生調査2018 基礎集計 (最終版 2013卒) (学内専用)
 - 卒業生調査2018 基礎集計 (最終版 2017卒) (学内専用)
 - 卒業生調査2018 基礎集計 (対象者全数) (学内専用)
- 学修状況報告 (2020) (学内専用)**
 - 基礎集計表 新入生 (学内専用)
- 学修状況報告 (2019) (学内専用)**
 - 基礎集計表 新入生 (学内専用)
 - 基礎集計表 新入生 記述式 (学内専用)
 - 基礎集計表 学部下級生 (学内専用)
 - 基礎集計表 学部上級生 (学内専用)
 - 基礎集計表 修士 (学内専用)
 - 基礎集計表 博士 (学内専用)
 - FrequencyTable_Master (internal use)
 - FrequencyTable_Doctor (internal use)

また、今年度に関しては、オンライン授業の実態を把握するため、授業担当教員対象の「コロナ禍における授業実施状況調査」を 2 回、学生対象の「コロナ禍における学修状況調査」を 1 回行い、その集計結果を取り纏め、本学の授業実施方針の参考資料ともなる報告書作成が多く発生した。さらに、この作成した報告書をもとに、学副会議、教務委員会等で解説を行った。また、コロナ禍とそれに伴うオンライン授業への移行による授業満足度の変化および学生の成績の変化について「授業アンケート」と教学データをもとに分析を行った。これらの結果も教務委員会等で報告を行った。

4. オンライン授業対応ページの作成

本センターでは、オンライン授業に対しての情報提供を3月末より、センターホームページを介して行った。



・「授業のオンライン化」

本学のオンライン授業実施方針および他大学・機関の情報についてまとめたものであり、発信は令和2年3月末より行った。

・「テレビ会議システム」

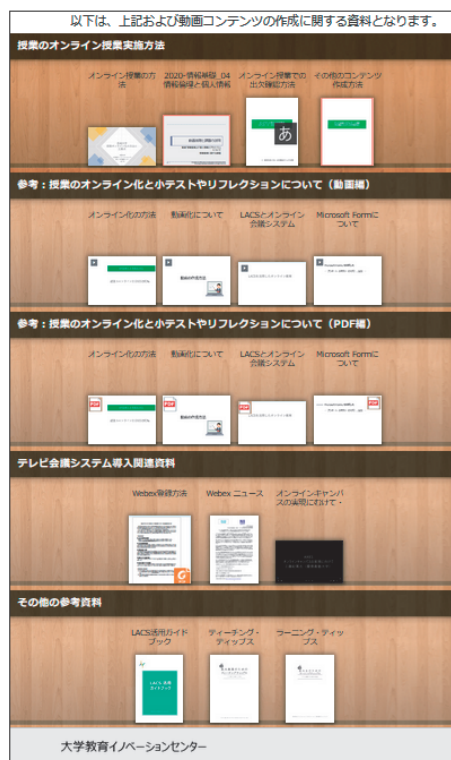
リアルタイム型の授業に必要なテレビ会議システム (Zoom, Webex, Microsoft Teams, Google-meet) の利用方法についての情報をまとめたものであり、先行して運用が進んだ大学等のリンク先などを示した。

・「本学のコンテンツ」

オンライン授業の方法や教材作成方法についてまとめたものであり、本学の授業実施方針に基づいて、参考資料および説明動画に関して提供した。

その他、他部局提供の参考資料や教学 IR 部門による授業実施状況の報告をまとめた資料について掲載した。

授業のオンライン授業の実施要領と補助資料です



5. その他

その他の業務としては、各種委員会（教養教育専門部会、評価・FD 教育改善専門部会、モジュール小委員会、教務委員会）における、議題や報告事項の調整などがあげられる。さらに今年度は、機関別認証評価のための規定などの確認作業も行った。